

12/2 (日) 誇りをかけて襷をつなぐ

塩谷地区の2市2町を9区間で駆け抜ける「塩谷地区駅伝競走大会」が行われ、本市から2チームが出場し、Aチームは準優勝、Bチームは6位の結果を収めました。力走を見せた9区・塚原淳之選手（専修大学）が区間賞を獲得し、門間大輔選手、塚原淳之選手が5カ年出場、湯田真一選手が10カ年出場表彰を受けました。沿道に駆け付けた観衆からは、通過していく全ての選手たちに向けて、力のこもった大きな声援が惜しみなく送られていました。



12/7 (金) 安全なまちのために

市内で、矢板地区防犯協会による「防犯・防火診断」が実施されました。これは、協会が中心となり、市・矢板警察署・市消防団協力のもと、犯罪の多発する年末や火災発生が多い季節を迎えたことから、安心・安全なまちづくりを目指して、民家や施設の安全確認、市民への意識啓発活動を市内一斉に行っているものです。市長・警察署長・消防団長は、矢板駅東西駐輪場で、自転車の施錠状況の確認や利用者に施錠の声掛けを行うなどの、防犯パトロールを行いました。



▲出発式で、矢板地区防犯協会会長としてあいさつする齋藤市長・神山矢板警察署長(右)・大貫消防団長(左)

12/9 (日) 心豊かな社会をめざして

文化会館小ホールで、障害者週間にあわせ、障がい者への理解と意識啓発を目的に「障がい者週間のつどい」が行われました。第1部の講話・パネルディスカッションでは、(株)テトテ相談支援専門員の大高氏と精神障がいを持つピアサポーターの金田氏・坂主氏が登壇し、生きがいや働くことの意義などについて話されました。講話の中で大高さんは「健常者・障がい者の区別なくひとりの人間として認められ生きていける、心豊かな社会になることを願っている」と熱く語っていました。



▲第2部の体験講座では、車いすや障がい者の疑似体験コーナーが設けられたほか、「矢っちゃれ隊」と参加者が一緒によさこいソーランを踊り楽しみました。

12/15 (土) 注目の旅スポットNo.1

東京都新宿区にある無料通信アプリ LINE 本社内で、2018年に注目された国内の観光スポットを約500人の旅の専門家を選ぶ「第1回 LINE トラベル.jp 旅人大賞」の授賞式が行われ、八方ヶ原にある「おしらじの滝」が見事大賞を受賞しました。受賞あいさつで市長は「数多くの観光スポットから、大賞に選ばれ光栄。昨年認定された日本遺産と合わせた周遊ルートを構築するなど、これを機により多くの方に訪れてもらえるようがんばりたい」と意気込みを語りました。



▲LINE(株)と総合旅行情報メディア「LINE トラベル.jp」を共同運営する(株)ベンチャーリパブリック代表の柴田氏から賞状を受け取る齋藤市長

12/16 (日) 道も心も体も健康に

道の駅やいた周辺で、ウォーキング&クリーンアップイベント「みちも健康 あなたも健康」が行われました。これは、3月に自転車のプロレース「ツール・ド・とちぎ」が道の駅周辺で開催されることから、来場者に気持ちよく観戦してもらおうと企画されたものです。当日は、3班に分かれた約60人の参加者が、ウォーキングを兼ねて延べ約15kmにわたり清掃を行い、2t車2台分のごみを回収しました。参加した方からは、「道もきれいになり、清々しい。心も体も健康になった気分」との感想がありました。



12/16 (日) 被災地に心を寄せる

文化会館小ホールで、安沢ほほえみ会主催の東北復興応援講話「大島を守ったひまわりさん」が開催され約90人の方が来場しました。安沢ほほえみ会は、東日本大震災後から定期的に気仙沼の離島・大島を訪れ支援活動を行っており、この講話をきっかけに、今なお復興半ばの被災地に改めて心を寄せてほしいとの想いから開催しました。講演した気仙沼・大島の小型船「ひまわり」保存会の菊田さんや「ひまわり」船長の菅原さんは、被災直後の様子や大島の現状などについて話をされました。



▲津波から必死に「ひまわり」を守ったときの様子を説明する菅原さん。▲菊田さんは、大島小学校の校長だった震災当時の学校の様子などを話されました。

12/20 (木) 福祉を身近に感じよう

文化会館大ホールで、福祉を身近に感じ、考えてもらうことを目的に「第13回矢板市福祉のつどい」が開催され450人が参加しました。式典では、福祉活動に貢献した16人1団体のほか、今年度初開催の福祉標語コンクール・小中高の部で最優秀賞を受賞した3人が表彰を受けました。その後の講演会では、元フジテレビアナウンサーの花田景子さんが「ピンチをチャンスに」と題し、「笑顔は奇跡を起こし、周りにも伝わっていく。ピンチな時こそ気持ちを切り替えるチャンス」と体験談などを織り交ぜながら話されました。



▲社会福祉協議会の福田会長から受賞者代表で表彰を受ける泉中学校の石澤さん

1/6 (日) 昔のお正月を楽しもう

矢板武記念館と郷土資料館で「遊びに行くべ〜あのお正月をもう一度!〜」が開催されました。これは、昔の遊びを通して日本の伝統文化を継承することを目的に行われており、2つの会場はたくさんの親子連れでにぎわいました。また郷土資料館では、地域のお年寄りが講師となり、こま回しのコツなどを教えていました。参加した親子は「家庭ではできない遊びがたくさんあり楽しかった。親である自分も夢中になり子どもたちと楽しい時間を過ごすことができた」と話してくれました。



## 表彰受賞おめでとうございます



経済産業大臣表彰  
豊田 文子さん  
(泉)

昭和60年より、長年にわたり各種統計調査に調査員として従事する中で、特に経済産業省所管の構造統計調査に貢献したことが認められ受賞されました。



経済産業大臣表彰  
村上 周司さん  
(安沢)

平成4年より、長年にわたり各種統計調査に調査員として従事する中で、特に経済産業省所管の構造統計調査に貢献したことが認められ受賞されました。



栃木県統計協会  
名誉会長表彰  
植木 正夫さん  
(石関)

平成22年より、各種統計調査に積極的に協力し、長年にわたり調査員として従事された功績が認められ受賞されました。

## 1/9 (水) 県農業士・名誉農業士認定

県農業士に認定された中山敏克さん(成田)と名誉農業士に認定された八木澤寛夫さん(土屋)ご夫妻が市役所を訪れ、認定の報告を行いました。

中山さんは、平成18年から認定農業者として、積極的に安全・安心な畜産経営に取り組むとともに、地域農業の活性化に尽力されていることが認められました。

八木澤さんは、平成10年に県農業士に認定された後、20年もの長きに渡り、農業の振興・発展に活躍されました。



▲(左から)  
・八木澤さんご夫妻  
・齋藤市長  
・中山さんご夫妻

## 1/13 (日) 三武道合同鏡開き

市武道館で、柔道・剣道・空手道の指導者や子どもたちによる3武道合同の鏡開きと新年初稽古が行われました。式典に参加した約150人を前に、各武道の代表者が新年の抱負を述べたほか、模範演技が行われました。その後の昼食会では、保護者手作りのけんちんうどんを膝を交えて食べるなど、団体の絆を超えて親睦を深めました。

柔道の代表として抱負を述べた渡邊美咲さんは「得意技を磨き、今年進学する中学生の大会でも活躍したい」と新年の抱負を力強く誓っていました。



## 1/20 (日) 笑って健康に過ごす

泉公民館で「第16回泉地区むらづくり新春講演会」が行われました。ご当地創作落語漫談師の田嶋踊理さんを講師に招き、「お笑い、大笑い健康高座ー落語・漫談を通してー」と題し、人権創作落語や地元の良さ、交通安全に関する漫談などで、今後の生活に役立つ内容を披露してくださいました。

聴く人を飽きさせない芸で会場は終始、参加者の大きな笑い声に包まれ、明るく健康な1年を呼び寄せる年の始まりとなりました。



## 新成人おめでとうございます！

1月13日(日)、文化会館大ホールで、平成31年新成人式が行われ、晴れ着姿に身を包んだ260人の新成人が出席しました。式典の中で、新成人による実行委員8人が中心となり「未来志向の成人式」にしようと「プロジェクトY 矢板の未来を考える」と題して意見発表が行われました。

その中で、市内商店の店主や両親などへのインタビュー、実行委員がまちづくりへの思いを話し合う映像を交えて、「矢板市を盛り上げ、住みよいまちにしていくため、成人になったことを機に社会に目を向け、地域や社会活動に積極的に参加しよう」と呼びかけました。



## 1/20 (日) 新春の片岡路を駆け抜ける

矢板南産業団地で、「第41回片岡地区コミュニティ新春マラソン大会」が開催され、風のない絶好のコンディションのもと400人を超える参加者が健脚を競いました。ゲストランナーとして、プロバスケットボールチームの「リンク栃木ブレックス」の選手・チアリーダーが参加し、大会に華を添えたほか、市婦人会片岡支部からとん汁が振る舞われ、選手たちは汗で冷えた体を内側から温めていました。

優勝した乙畑小3年の深井さんは「4年生もいる中で1番になれてうれしい。マラソンをいっぱい練習して連続優勝を目指したい」とうれしそうに話してくれました。

種目	氏名
小学生1・2年	男子 遅澤 友海(東小2年)
	女子 金子 愛望(矢板小2年)
小学生3・4年	男子 深井 真生(乙畑小3年)
	女子 大和田茉央(片岡小4年)
小学生5・6年	男子 船木 陽(東小5年)
	女子 渡邊 芹菜(東小5年)
中学生	男子 松嶋 峻矢(片岡中3年)
	女子 兼子 咲楽(矢東高附中2年)
一般	男子 大澤 瑠海(那須拓陽高)
	女子 山本 由美(日光市)
家族マラソン	滝 心裕・清登(さくら市)

